

東西冷戦下におけるオリンピックのボイコット問題に対する一考察

A study on the issues of boycotting Olympic Games during the Cold War

1K06A219

指導教員 主査 友添秀則先生

藤本 陽

副査 杉山千鶴先生

【研究の動機】

昨日、2016年の開催都市に、ブラジルのリオデジャネイロが決定した。この決定を受け、現地の人々数万人が都市に押し寄せ、開催決定を祝った。世界中の人々が一堂に会し、全く平等な舞台で競技を行うオリンピックは人々にとって、希望なのだろう。また、4年に1度の大舞台で真剣勝負を繰り広げる選手達の姿は感動を誘うものだ。私も幼い頃から、テレビなどを通じて、オリンピックを見て、沢山の感動と夢をもらった。だが、一方でそのオリンピックは常に政治的な問題を孕んできたと言える。例えば、1936年ナチ・オリンピックなどは良い例であろう。この大会でヒトラーは、オリンピックを国威発揚の為に使用した。私は、スポーツに何故、このように政治が持ち込まれるのか疑問を抱いた。中でもボイコット問題に関しては、大会自体だけでなく、選手、スポーツ界にも多大な影響を与えると考え、その時、当事者は何を感じたのか非常に興味があった。こういったことを踏まえ、オリンピックと政治の関係性、その背景に迫り、本当に東西冷戦期のような大規模なボイコットは必要だったのかを考察したい。

【研究の目的】

まず、スポーツと政治が何故結びつきやすいのかを検証する。そこから、オリンピックと政治が関連しやすい原因を探る。また、オリンピックをボイコットすることが国や選手にもたらす影響を明らかにしていくこととする。

【研究の方法】

書籍や新聞、インターネット資料を参考とした研究を中心とする。そこから現状や問題点を探る。

【各章の概要】

第1章 オリンピックとボイコット

まず、ボイコットの定義を明確にし、何故それがオリンピックの世界で用いられたのかを明らかにする。オリンピックと政治に触れる前に、スポーツと政治の関係性に探っていく。スポーツは、何故政治と結びつきやすいのか。また、一方で何故政治はスポーツを利用するのか。そこからオリンピックをボイコットすることの意味について触れていく。

第2章 東西冷戦下のオリンピックボイコット

1980年モスクワオリンピック、1984年ロサンゼルスオリンピックの東西両陣営のボイコットに至るまでの経緯について触れていく。こうすることで、政治側、スポーツ側の思惑を明らかにすることが出来、ボイコットに対して多角的な検証を行えることとなる。

第3章 オリンピックと非政治主義

モスクワ、ロサンゼルスオリンピックボイコットにより、一方的に被害を受けた選手に視点を当て、彼らがボイコットにより、どういった影響を受けたのか明らかにしていく。ボイコットをすることは、選手の絶頂期を奪い、競技力を低下させるだけでなく、その国の将来の競技力にも多大な影響を与えるのではないかという推測を立てていく。

結章 本研究のまとめ

本章では、第1章から第3章までの総括を行い、第3章で挙げた選手自身が味わった苦痛、そして、オリンピックのボイコットがもたらす様々な悪影響を踏まえ、ボイコット問題に対する批判的考察を行うと共に、これからのスポーツ界の政治に対する姿勢を自らの視点で考察する。